

「焼きイモ大会」 平成21年12月12日(土)午前9時から

●当日の流れ

9:00～ あいさつ・作業内容の説明・各作業の担当者の決定

9:15～ 作業の開始

1 焼きイモを行う場所を作る。(焼きイモを行う場所は、小グラウンド)

- 下記の作業を子ども達と一緒にやる。
- 体育倉庫からベニヤ板を運ぶ。(リヤカーを使う。)
- 体育倉庫から落ち葉を運ぶ。(リヤカーを使う。)
- たけのこ隊の畑から土を運ぶ。(一輪車を使う。)
- バケツに水を入れて、運ぶ。(リヤカーを使う。)

2 サツマイモの調理(下ごしらえ)の方法を説明する。

調理方法

- (1) サツマイモを、新聞紙(半ページ分を使用する)で包む。
- (2) そのまま、バケツの中に入れて濡らし、取り出して、握って絞る。
- (3) アルミホイールを約40～50cmの長さに切り、それを子ども達に渡し、絞ったサツマイモを包む。

3 サツマイモを焼く

- ① 最初にベニヤ板を敷き並べる。(1ブース、3枚使用する)
去年は、6ブース作ったが、今年は4ブースとする。
- ② ベニヤ板の上に、土を置き、広げる。
- ③ その上に手で水を掛けて、少し土を湿らせる。
- ④ 1ブースに1個、火消し用のバケツを置く。
- ⑤ 落ち葉を少し土の上に置き、その上に新聞紙を丸めて、マッチ等で火を付ける。
(マッチを使ったことの無い子どもにさせるのも良いかも。)
- ⑥ 燃え出したら、その上に、小枝・竹を置き、火を強くする。
- ⑦ さらに、マキを置く。
- ⑧ マキがある程度燃えて、安定してきたら、サツマイモをその上に置く。
- ⑨ その上に、モミガラを置き、燃えはじめたら、落ち葉を少しずつ、その上に掛けて行く。

注意： 落ち葉を被せすぎると、空気量が不足し、中で落ち葉が燃えないので、イモが焼けません。また、焼くのに時間が掛かってしまいます。

- ⑩ この後は、落ち葉の燃え具合を確認しながら、落ち葉を追加する。
たまに、竹の棒で、燻っている落ち葉を動かして中に空気を入れたり、ウチワで扇いだりして、燃やして行ってください。
- ⑪ 1時間30分位したら、ためにし、サツマイモを取り出し、割り箸を突き刺して、加減を見る。
- ⑫ 突き刺さるようであれば、サツマイモを出して、それぞれのブースに入れた児童に、軍手、手袋をさせて、とらせる。
- ⑬ 取り出しが終わりましたら、燃え残りの落ち葉(袋に入っている物は、燃やさずに置いていただきます。)を全て燃やす。
- ⑭ 土をある程度、冷ましたら、水を掛けて、一輪車に乗せ、たけのこ隊の畑に持って行く。
- ⑮ ベニヤ板で、燃えている箇所があれば、その部分に水を掛けて、体育倉庫に返す。

